

〈第28回グッド・ペインティング・カラー最優秀賞受賞者インタビュー〉

“みんなで作った”「木漏れ日グリーン」の新庁舎——国分寺市役所 新庁舎

(株)竹中工務店 設計本部 環境デザイン部 環境ソリューショングループ長 鈴 晃樹氏
(株)コトナ 代表取締役／色彩計画家・クリエイティブディレクター 片岡 照博氏

“豊かで快適な環境づくり”をテーマとした、塗料・塗装による建築物・構造物等のカラープランニングコンペティション、「グッド・ペインティング・カラー」(主催：グッド・ペインティング・カラー委員会=(一社)日本塗料工業会・日本塗料商業組合・(一社)日本塗装工業会)。小誌既報のとおり、第28回となる同賞の受賞作が昨年末に発表され、鈴晃樹氏(株)竹中工務店)らの手掛けた「国分寺市役所 新庁舎」が新築部門最優秀賞に選ばれた。

地域の子供たちが参加する色彩ワークショップを経た色選びを行ったり、東西の面でまったく異なった外壁のベースカラーを採用したりするなど、さまざまな特徴を持つこの作品。編集部では、この庁舎の設計を手がけた(株)竹中工務店の鈴晃樹氏、色彩計画やワークショップ計画に深く携わった(株)コトナの片岡照博氏に、受賞作の色彩計画のポイントや、カラーデザインツールとしての塗料について、話を聞いた。(取材／編集部)

「自然」と「史跡」に挟まれた場所に建つ庁舎

受賞作である「国分寺市役所 新庁舎」ですが、どのような特徴を持つ建物なのでしょう——

【鈴】 敷地は、東側に武蔵国分寺公園という大きな都立公園があり、西側には東山道武蔵路と呼ばれる古代の道路跡があり、それらに挟まれる場所にこの新庁舎が建っています。

エリアに関しては、少し南へ行くと「武蔵国分寺」の史跡があつて、またよく知られる「国分寺崖線」など、歴史性や自然、それから水も豊かなところです。

そのような場所に建てる庁舎ですので、歴史的な要素や自然・文化資源をつなぐものとしてふさわしい建物にしたいと考え、配置の計画はもちろん、例えば広場を



(株)コトナ・片岡照博氏(左)と(株)竹中工務店・鈴晃樹氏

つくって周囲とつなげていくことなどもイメージしながら、建物の設計をしていきました。

建物のコンセプトとしては、公園の中にあるような庁舎にしたいというのが一つ、もう一つは、ただ建物を役所としてつくって引き渡すというのではなく、“みんなで作った”庁舎だと感じられるようなものにしたいということがありました。我々設計者や施工者、市の担当者、職員全体、市民、子供たち等々さまざまな関係者が、「自分たちの市役所」だと思えるようにするためのプロセスを大事にしながら、建物をつくっていきました。

実際に出来上がる建物に対する配慮としては、「国分寺らしさ」をポイントにしています。「国分寺らしい」要素や色とはどんなものなのかを皆で考えながら、建物の中に散りばめていく、そんな設計をしようと考えました。

子供たちが参加した色彩ワークショップ

そうした構想のもとで、建物の色は、実際にどのように決められていったのでしょうか——

【鈴】 国分寺らしい色を具体的にどうやって決めるか